

中山家の人々

父 母	続柄	順	姓名	字・幼名・号・戒名	役職・家業	給禄/褒賞	藩主	年齢	生年月日	屋敷・居住地	墓地(○数字は別紙写真番号)	参考資料	
									没年月日		備考		
		①	中山 惣左衛門	仲山宗左衛門	陶晴賢・江良弾正忠家臣 須々万沼城敗れ毛利服属			元就				[徳山地方郷土史研7号P11]	
			1557(弘治3年)	江良弾正忠の子江良愛童に被官 陶晴賢の旗下須々万沼城に籠城するも落城 以後毛利家家臣となる								[徳山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵][私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵]	
			1569(永禄12年)	江良弾正忠に属し筑前立花要害に籠城し毛利氏の為に大友軍勢と戦う 後江良氏に従い鹿野・大向方面に住み着く								[徳山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵][私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵]	
中山惣左衛門	嗣子	②	中山 新右衛門尉	与太郎				輝元		大向村堀農		[徳山地方郷土史研7号P14]	
			1597(慶長2年2月)	毛利輝元より <b>新右衛門尉</b> に任ぜられる 毛利元就、輝元に仕え天正年中諸所の戦場に参加する								[私家筋書 中山義文所蔵]	
中山新右衛門尉	嗣子	③	松村 惣左衛門	秦室常安信士	藩雇分下山廻役/町人			1・2	1681	延宝9年2月14日	大向村・徳山城下靴町 妻・無角妙為信女貞享元年(1684)9月24日卒	[註1][註4] [徳山地方郷土史研7号P14]	
			1652(承応元年) 1666(寛文6年5月3日)	大津島の牧場を田島に開墾、近井開作開墾 田島1町(代表者 <b>松村惣左衛門</b> ) 大向石ケ原の新開作を申し出て行く 同村千ヶ瀬山より鹿野境一ノ谷まで徳山藩の御立山を預けられる 次いで田代村の開作も行う								[徳山市史上P414、P543] [私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵][山口県所在史料目録6集P38 山口県文書館]	
			1674(延宝2年6月27日) 1674以降(延宝年中)	「大向村之御立山下山廻り役被仰付 覚」 <b>松村惣左衛門</b> 宛 徳山城下靴町に居を変え町人となる 中山姓を返上して <b>松村屋</b> と号し商売を始める								[私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵][山口県所在史料目録6集P38 誤記山口県文書館] [私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵]	
松村惣左衛門 無角妙為信女	嫡男	④	中山 新六	松村屋徳右衛門 梁峴宗俊居士 逸山 宗俊	町人/徳山藩再興功労者	苗字(正徳5年)	3		1720	享保5年11月28日	徳山本町(幸丁) 妻・実窓貞眞信女元禄4年本正寺⑤/後妻・春岳珠光信女宝永2年卒興元寺	[註1][註3][註4] [徳山地方郷土史研7号P14]	
			年号不明 1682(天和2年) 1682(天和2年12月26日) 1688(貞享5年5月) 1693(元禄6年) 1697(元禄10年) 1706(宝永3年3月16日)	徳川綱吉時代、太刀、馬代、重陽に小袖献上、綱吉公より書付御判物頂戴 毛利家に忠勤を尽くし、元次公筆による掛軸、東鑑を賜う 大津島近江開作、島田村開作、赤崎山開作を行う 浅江に浅江 <b>松村屋</b> 酒場を造る 「永代売渡申酒場道具蔵長屋之事」 <b>松村市郎兵衛</b> 宛書状 <b>松村惣左衛門</b> 、大津島近井において田島2町歩の開墾を出願、許可される 徳山幸丁に酒場を始め家業とする 蔵4棟、部屋16室及び大作業場があった <b>松村屋新六</b> 、大津島近江に田1町7反1畝5歩、畠3畝を開墾する 元禄3年(1690)より栗屋沖万屋開作 宝永3年石盛 田9町9段余、畠4町5段3畝余築立人 <b>松村宗俊</b> 他2名									[私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵] [私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵] [山口県所在史料目録6集P38 山口県文書館] [徳山市史史料中P493、494][徳山市史年表P15][開作御証抛物控] [中山家図] [徳山市史上P414][徳山市史年表P16][徳山藩史] [徳山市史上P414][徳山市史史料中P492][徳山市史年表P17][開作御証抛物控][私家筋 嘉永4年書出 中山義文所蔵] [徳山市史年表P18][徳山藩史][私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵] [私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵]
			1709(宝永6年3月8日) 1714(正徳4年3月8日) 1715(正徳5年6月6日) 1715(正徳5年12月28日)	徳山町大火、東町から江田町まで住宅1300余軒全焼 <b>中山家</b> も全焼し家財道具等焼失する 夜八ッ時、向いより出火して居宅商売道具すべて焼失する (その後酒屋復興し、嘉永4年(1851)まで営業する) 万役山事件勃発、徳山藩改易の一因となる 「 <b>新六</b> 苗字被差許」書状								[徳山市史史料中P528][御領町人御仕成][ <b>中山新六</b> 宛「名字免覚」中山義文所蔵][徳山町 <b>中山伴七</b> 印鑑押印書状控 中山義文所蔵][山口県所在史料目録6集P38 山口県文書館] [徳山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵][私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵] [申渡覚書状徳山市史上P342 写中山義文所蔵] [私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵]	
			1716(正徳6年正月13日) 1716(正徳6年4月13日) 1716(享保元年9月)	「屋号頂戴 <b>古屋</b> 」切紙写 徳山藩改易となる (正徳6年6月22日元号を享保に改元) 百次郎様の出世(再興)を祈り、伊勢神宮、巖島大明神、讃岐金毘羅様へ大祈願をなす 息子へ手紙を宛て藩再興、尽忠の恩を託す								[徳山市史史料中P528][御領町人御仕成][ <b>中山新六</b> 宛「名字免覚」中山義文所蔵][山口県所在史料目録6集P38 山口県文書館] [徳山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵][私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵] [申渡覚書状徳山市史上P342 写中山義文所蔵] [私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵]	
義父中山新六	嗣子*	⑤	中山 善右衛門	初代善右衛門 初代古屋伴七 二代目新六 禅海祖源居士	町人/徳山藩再興功労者	本町年寄	3~5		1745	延享2年11月16日	徳山本町(幸丁) 妻・安室妙壽信女享保17年(1732)4月18日卒大迫田八正寺⑥	[註1]	
			(実父圓善浄権信士 享保4年2月没) (実母専善妙念信女 享保3年3月9日没)	遠石八幡宮へ石灯籠を寄進する 江戸参勤交代資金として6貫416匁6分及び銀5貫目を献上する 徳山御領地百姓中 中野市左衛門宛書状 百姓一揆画策 百姓町人ら4700人が城下に集結、萩へ向かうが途中余儀なく撤退 本町年寄 <b>中山伴七</b> ら年寄、庄屋25名が代表となり徳山藩再興を嘆願する 口上覚 百姓中より中野市左衛門宛 (萩藩土中野市左衛門はこの騒動の時、萩藩代表として徳山側と折衝に当たった人物) 口上覚「御請状之事」庄屋年寄より中野市左衛門宛 「請状」中野市左衛門より <b>中山伴七</b> 宛各書状 徳山町方 <b>古屋</b> 、運動資金として京都の里人に提供する 徳山藩再興なる 功労者の一人 <b>古屋伴七</b> 、功労者として「徳山市史」に補足あり「最後まで陰の人として里人を助け、身分を超越し終生里人と親交を続けた」 奈古屋里人より感状約100通(現存15通)その他同志のものより8通現存する また里人妻より <b>善右衛門</b> 妻宛に2通、ほか19通の手紙がある 百次郎様(後の四代藩主毛利元就)より感状をいただく 御部屋様(四代藩主毛利元就の室利子)御意、御姫様(元就の妹幸子)下着を娘へ被下候、金5百疋賜る 御屋敷山大松3本大東風にて吹き折れ御部屋様、 <b>善右衛門</b> に金毘羅、巖島神社に代参せしめる その礼に手紙、菓子を添え、御紋付、御羽織金子5百疋を賜る 書付( <b>中山新六</b> による還付に関するもの) 天了院様(五代藩主毛利広豊)より上下を頂戴する 上様(五代藩主毛利広豊)益々御機嫌宜しく、蓮性院様(四代藩主毛利元就母)も御機嫌宜しく御樽代頂戴する 中山家五代 <b>伴七</b> 、鴨一羽、鯛一匹、御台所へ献上する(12月23日、1月15日付書状写あり)									[徳山社寺文化財調査概報(第5年度 昭和59年度)] [借銀手形 用人古志宅右衛門より <b>中山伴七</b> 宛証文 中山義文所蔵][山口県所在史料目録6集P38 山口県文書館] [中山家文書][山口県所在史料目録6集P38 山口県文書館] [徳山市史上P348] [徳山市史上P348] [私家筋 嘉永4年書出 中山義文所蔵] [私家筋 嘉永4年書出 中山義文所蔵][山口県所在史料目録6集P38 山口県文書館] [徳山市史上P352] [徳山市史上P366、P368] [中山義文所蔵] [中山義文所蔵] [私家筋書 中山義文所蔵] [私家筋 嘉永4年書出 中山義文所蔵] [中山義文所蔵][山口県所在史料目録6集P38 山口県文書館] [中山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵] [中山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵] [中山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵] [中山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵]
中山善右衛門 安室妙壽信女	二男	一	松村 長右三郎	霜顔童子				一	1712	正徳2年11月7日	大迫田八正寺①		
義父中山善右衛門 義母安室妙壽信女	嗣子*	⑥	中山 善右衛門	宗寿 二代目善右衛門 義岳鐵心居士 (妹藩土谷野直貞に嫁1737年[譜録])	町人			3~5	1733	享保18年4月21日	徳山本町(幸丁) 妻・天外智桂享保11.6.20本正寺⑤/後妻・実習慈貞大姉明和2.9.21卒八正寺⑦	[註3][徳山毛利家譜録] [徳山地方郷土史研14号P45]	
			(実父多田玄策居士 享保14年正月13日没)	二代目 <b>善右衛門</b> 、困窮之者哀憐厚く、其の筋目に上下被下置候 御部屋様より金子百匹、御紋付上下賜る 二代目 <b>善右衛門</b> 、困窮之者哀憐厚く、其の筋目に上下被下置候								[私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵] [徳山市史史料中P528][御領町人御仕成 中山義文所蔵][中山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵]	
中山宗寿 天外智桂信女	嗣子	⑦	中山 善右衛門	後善右衛門(墓碑彫)三代目善右衛門 禅隆義閑居士	町人			3~5	1750	寛延3年6月22日	徳山本町(幸丁) 妻・善正院智光寛保2年(1742)11月12日卒大迫田本正寺⑧	[註3]	
			1746(延享3年12月22日) 1748(寛延元年10月)	紋付上下着用、御目見許される 若殿様近年之内江戸御参府御用意の為、御借銀心遣之儀、御当用銀1貫目差し出す								[徳山町 <b>中山伴七</b> 印鑑押印書状控 中山義文所蔵] [福谷忠左衛門より <b>中山善右衛門</b> 宛証文 中山義文所蔵][徳山市史史料中P529][御領町人御仕成/御当用控帳 中山義文所蔵]	
義父中山善右衛門 義母善正院智光信女	嗣子*	⑧	中山 勝長	三代目惣左衛門 長安自澤居士 (妹藩土谷野直行に嫁1762年[譜録])	酒造業/蔵本付/検断頭	二扶持		5~7	1795	寛政7年3月24日	徳山本町(幸丁) 妻・貞倫慈享大姉天明3年(1783)7月10日卒大迫田本正寺②	[註2][註3][徳山毛利家譜録] [徳山地方郷土史研14号P45]	
			1748(延享5年3月24日) 1750(寛延3年12月18日)	紋付上下着用許される 所業神妙につき褒章される <b>中山惣左衛門</b> 、祖父、養父通りに御紋付上下着用許される								[私家筋 嘉永4年書出 <b>中山伴七</b> 中山義文所蔵] [中山家史料 古来より家柄御仕成之覚 中山義文所蔵]	



中山家の人々

中山宗成	長男	断絶	中山 宗太郎	末次宗太郎						富田		
末次(中山)宗太郎	長男	⑬	中山 東一郎	末次宗太郎 暁峰 末次東一郎 (妻・菅沢文子昭和34年8月20日逝去)	第12代富田町長(昭和9年)			88	1876(明治9年)5月15日	富田古市	大迫田本正寺⑩	[新南陽市史 S60年]
末次りよ				(妻・菅沢文子昭和34年8月20日逝去)	中国奉天製麻会社総支配人				1963(昭和38年)8月2日	中山家再興/H4新周南新聞自叙伝連載30回(清木素監修)		『俺ノ一生回顧録』昭和25年
<p>&lt;以下 中山東一郎著『俺ノ一生回顧録』より&gt;</p> <p>1894(明治27年)8月) 18歳にして単身福川港を出港。巖原を経て韓国釜山へ。その後、柳樹邑に駐屯していた日本軍第一師団の管理部付酒保員として従軍。師団認定の陸軍用達共賛社の一員として台湾へ渡るが苦難の連続。その後中国へ拠点を移すも 1900(明治33年)義和団事件に巻き込まれ、すべての努力が水泡に帰す。租界で倉庫業を営む。翌35年世界的な銀相場大暴落で中国経済が破たんし倒産。</p> <p>1901(明治34年)3月) 心機一転、新事業の調査の為、ドイツ製自転車にてひとり天津を出発、中国南部を目指す。しかし事故に遭遇、重傷を負う。途中、奇跡的な援助を受けながら命からがら上海に達す。傷心の帰国。</p> <p>1902(明治35年)12月) 陸軍通訳に任命され、第八師団付で従軍。その後第四旅団司令部付、先頭部隊に属す。敵の砲火凄まじく全滅の危機、旅団長の「自決覚悟ありたし」の訓示があり、万歳三唱し死を覚悟する。</p> <p>1904(明治37年)6月) 奇跡的な生還を果たし、陸軍通訳の戦功として旭日章勲六等、一時賜金従軍褒章を下賜される。陸軍を離れ三井物産長春出張所員となる。</p> <p>1907(明治40年)4月) 東京本店に転勤を命じられ帰国。期するところあり、引き止められるも辞表を提出し円満退社する。</p> <p>1910(明治43年)12月) かねてより研究を重ねた麻袋製造のため、妻子を連れハルビンに赴く。差し当たって設立した仲買業が小寺洋行のハルビン総代理店に指名され、巨万の利益を上げる反面、不測の災難に遭遇。</p> <p>1912(明治45年)6月) その後も天変地異、不測の災難に度々襲われ、ついには妻子を帰国させ、捲土重来を期し、ハルビンを去る。大連にて再び麻袋製造に着手する。</p> <p>1916(大正5年) 努力が実り、安田財閥の傘下で新会社創立が決まる。元旦、郷里に立ち寄り、妻子を連れ大連経由で奉天に着任。満蒙繊維工業株式会社の看板を掲げ業務を開始する。内部事情で重役には選任されず、しかし実質経営者となる。</p> <p>1919(大正8年)1月) 工場から出火、すべて灰じんに帰す。社員や二人の中国人職工を円満解散させ、残留、後始末に奔走する。その甲斐あって再興の責任者とされ、大正13年1月取締兼総支配人となり、新工場の操業が再開された。</p> <p>1922(大正11年)4月) 昭和2年張作霖爆死事件突発。対日思想にわかに悪化。世界的経済の不振に伴う恐慌も重なり、ついには安田社長の独断と偏見により工場閉鎖、全員解雇を伝えるよう東一郎に命令が下された。</p> <p>1930(昭和5年)3月) 突然の暴令は信じがたく社員、職工千有余人の悲惨さを思うとどうても認められず、また不況は一時的なものであり、将来は期待されるものであった。再三善処を求めたが叶わず、富豪の威圧に屈し、辞表を提出する事となった。</p> <p>1950(昭和25年) 憤懣激昂する社員、職工を慰撫、鎮定をし無事閉鎖を完了。退職金はすべて従業員に分け与えた。彼らは東一郎に感謝の記念とし頌徳式を挙行、かつてない盛大な行列となり、音楽が響き渡る中、金色美麗の巨大な一対の額を贈った。</p> <p>2020(令和2年) その後、故郷で隠棲閑居した東一郎は5冊のノートに回顧録を記し、『俺ノ一生回顧録』として遺している。回顧録の最後には「禍福はあざなえる縄の如く、世は塞翁が馬なりける」と波乱万丈の人生を締めくくっている。</p> <p>巨大な一対の額は中山家の玄関に、表通りへはみ出さんばかりに今も失せることなく光り輝いている。</p>												
中山宗太郎	二男	一	財満 友蔵	東一郎実弟 (娘ヨシ子は東一郎の養女とし栄の妻)								
末次りよ												
立野房助	四男*	⑭	中山 栄	雁来 (妻・中山ヨシ子平成14年4月15日逝去)	海軍機関学校・海軍少将					富田古市	大迫田本正寺⑩	
中山栄									2001(平成13年)5月22日		戦艦「榛名」機関長	
中山ヨシ子玉芳	長男	⑮	中山 義文	(妻・マリア中山澄江平成29年8月1日逝去)	徳山中学43期卒・海兵75期 京都大学卒・香港大丸社長				1926(大正15年)5月16日	富田古市	回天顕彰会監事/中山家奥都城平成6年建立本正寺⑨妻マリア⑩	

			中山 孫右衛門	本源自性信士 (妻自源恵性大姉寛保2年正月16日)				3~5			櫛ヶ浜	中山家過去帳記載 (S38.11興元寺金子ミツ調べ)
			中山 孫右衛門		大島伐山方世話人 漁業			7~8			櫛ヶ浜	[註3]
			1807(文化4~5年)	徳山市史料中P581~3 『花岡櫛ヶ浜エ鰯網代掛合』徳山毛利家文庫								
			箆屋 五兵衛		町人						防州徳山本町	[註3]
			1817(文化14年)	徳山市史料中P644 『油方一件二付撰州灘目江当町三板場より差出候締書写』徳山毛利家文庫								
			古屋 庄助		町人							[註3]
			1834(天保5年)	徳山市史料中P543 『現銭預御仕組立二付在町(中略)献納並御賞美一件』徳山毛利家文庫 一代苗字、二代迄上下御免								
			古屋 清右衛門		町人							[註3]
			1849(嘉永2年)	徳山市史料中P423~4 『諸町壱ヶ年御定御運上銀御取立御算用一紙』徳山毛利家文庫(酒場其他運上銀)已前 古屋惣右衛門抱								
			古屋 七兵衛		町人							[註3]
			1849(嘉永2年)	徳山市史料中P425 『諸町壱ヶ年御定御運上銀御取立御算用一紙』徳山毛利家文庫(白魚梁運上銀)								
			古屋 九兵衛		町人							[註1][註3]
			1849(嘉永2年)	徳山市史料中P428 『諸町壱ヶ年御定御運上銀御取立御算用一紙』徳山毛利家文庫(櫛板場半面木運上銀) / 徳山市史上P557 嘉永3年(1850)藩に櫛板場職を指名される								

\*養子 [ ]出典：[譜録]徳山毛利家文庫 山口県文書館 [註1]徳山市史上 S59年 [註2]徳山市史料上 S39年 [註3]徳山市史料中 S41年 [註4]徳山市史年表 S44年 墓所の○数字は別紙写真の墓碑番号  
2020 T. Kurisaki (2020.11.8修正)